

各学部学科等における3つの方針

健康栄養学部

◎ 健康栄養学科の3つの方針

《健康栄養学部健康栄養学科がめざす人間像》

「倫理観」、「優しさ」、「思いやる心」といった医療人としての資質能力を備え、栄養・食生活支援を通して、人々の生活の質の向上や豊かな生活の実現に貢献できる管理栄養士

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

大学設置基準に基づき、本学が定める履修要件に沿って124単位以上を修得し、そのGPA値が原則2.0以上であって、以下の観点別能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与する。

I【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】（態度・志向性）

- 1) 医療・福祉に関わる専門職としての倫理観を持ち主体的に考え取り組むことができる。
- 2) 食生活と健康との関係や環境や社会に関心を持つことができる。
- 3) 他者と協調性を持つことができる。

II【専門職業人としての汎用的能力】（技能・表現）

- 1) 管理栄養士が栄養ケアマネジメントを行うために必要となる基本的技術を身につける。
- 2) 文書作成とプレゼンテーションができる。

III【教養ある専門職業人としての基礎力】（知識・理解）

- 1) 社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康についての基本となる知識を身につけ理解する。
- 2) 管理栄養士が栄養ケアマネジメントを行うために必要となる知識を身につける。

IV【地域生活を支援し、創造する力】（行動・経験・創造的思考力）

- 1) 専門的知識と技術を統合し、課題の発見と解決に向けての行動力を身につける。
- 2) 多職種と連携し、栄養ケアマネジメントを実践する力を身につける。
- 3) 管理栄養士として地域に貢献できる実践力を身につける。

教育課程方針（カリキュラム・ポリシー）

- ・カリキュラムの根幹は、専門基礎分野と専門分野の2分野から構成される。専門基礎分野には、専門分野を理解するための基礎科目として、社会と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康の分野からなる。専門分野としては、基礎栄養学と応用栄養学をベースにして、栄養士業務の基本となる栄養教育論、さらに管理栄養士の活躍分野から分類した臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論からなる。
- ・2年、3年次には、栄養ケア活動の実践において地域住民にアプローチできるようにすることを旨とする。そのために、「健栄ゼミ（基礎1）」「健栄ゼミ（基礎2）」および「健栄ゼミ（展開）」を個々の科目で学修した知識を統合的に発揮できる能力を養える科目として設置する。
- ・3年次後期から4年次にかけては、その実践を評価し見直す力を養うための卒業研究ゼミナールⅠ、卒業研究ゼミナールⅡ、卒業研究、卒業演習を設定する。
- ・4年次前・後期に、「キャリアアップ演習Ⅰ」「キャリアアップ演習Ⅱ」を配置して、職業人としての能力の向上を目指す。
- ・以上のような基本方針に基づき、管理栄養士国家試験受験資格や栄養教諭免許、その他の資格が取得できる基礎から応用まで様々な専門科目群を準備している。
- ・これらが単なる知識や技術の修得だけに終わらぬよう、実践力を養うための臨地実習などが組み込まれている。

入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）

健康栄養学部健康栄養学科では、食を通じた健康づくりと疾病の予防や治療に情熱をもって取り組む管理栄養士の育成を目的とし、次のような意欲、能力、適性をもった学生を受け入れることを基本方針とする。

- ① 食を通じて、世のため、人の役に立ちたいと考えている人
- ② 人が好きで、相手の立場を思いやることができ、協調性のある人
- ③ 大学教育の修得に必要な基礎学力を備えている人
- ④ 専門職としての責任を自覚し、生涯学習する意欲のある人

人体の構造と機能の理解をした上で、健康や疾病と食事との関係を知り、その人に必要な料理をおいしく提供したいという思いをもっている学生を受け入れたいと考えている。本学科への入学を希望する学生は、高等学校において基本とされる教科について高等学校卒業相当の知識を有していること、理科では「化学基礎・生物基礎・化学・生物」のうち1科目以上を履修していることが望ましい。また、課外活動やボランティアなどに積極的に取り組む姿勢も大切である。